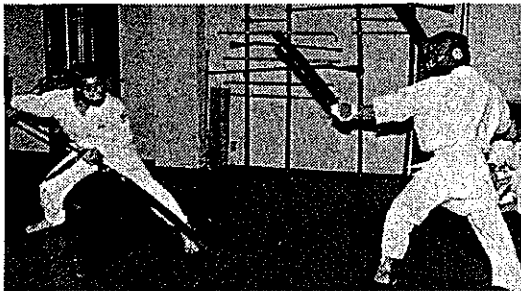


# スポーツチャンバラ



二刀流とやりの対決など、「異種格闘」もスポーツチャンバラの魅力

うごかすことができる。

どつ構え、どのように打ち込んでもいい。背後を攻めることも認められてい

る。そして、一度でも得物が体に当たれば、その時点で「勝負あり」となる。

相打ちは両者敗退。つま

り、徹底した実戦性に真か

れているのである。この新しい武道の狙いは何か。創始者の田辺哲人さん(国際スポーツチャンバラ協会会長)は、剣道・銃

波に取り残されてしまふ」との危機感を抱いていた田辺さんは、より大衆性がある実戦的な武道の確立を目指してきた。

田辺さんの発想は図に当たり、七十年代前半に道場を開いて以来、愛好者は急増し続け、現在は全国で約四万人の入門者を数えるまでに。海外十六カ国にも支部を持つ。「三歳の幼児からお年寄りまで気軽に参加

でき、始めたその日から試合もできる。

この自由さが受けているんですよ」と田辺さんはそのたいご味を語る。

昔の子供が野原を駆け巡ってやっていたチャンバラごっこに似て。剣道の有段者が素人にあっさり負け

## 遊び感覚で

## 護身術も体得

ルバイラの芯(しん)にス

ポンジを巻き付けた剣で打ち合う。剣は得物(えも)の(と)呼ばれ、全長六十センチ以下の小太刀から全長百八十センチのヤリまで、全部で七種類あり、好きな得物で戦

剣道・各種古武道など、全部合わせて三十段を超える武道家。以前から、「剣道を代表とする日本の武道は形式や精神面にとられ過ぎていた。これでは時代の

てしまふ意外性。遊び感覚で実戦のシミュレーションを重ねることで、いざ暴漢に襲われた時の護身術としても役立つ。スポーツチャンバラは従来の武道には無かった大きな可能性を秘めているようだ。